

西南学院大学博物館研究室訪問シリーズ

第一回 山田順研究室



西南学院大学 国際文化学部国際文化学科

山田 順(やまだ・じゅん)准教授



1994~1997 バチカン研究機関である教皇庁キリスト教考古学研究所大学院に学ぶ。同大学院修士論文で、サン・セバスティアーノのカタコンベの壁画洗浄修復を実施。

1997~2000 博士論文準備生として、ローマのカタコンベを踏査しながら壁画の図像研究に従事。

2002. 4~ 現職

2005 ドミティッラのカタコンベ最奥部で、墓室天井に描かれた巨大人物像の壁画を発見。

2013~ 日伊共同チームを率いて、ローマ歴史地区・地下7mの現場で、キリスト教小礼拝堂(4世紀)を発掘調査中。2015年には新たな壁画が出土。イタリアの学会・刊行物でその成果を発表。



チョットのぞき見!!
山田順コレクション

左 ▶ 善き牧者キリスト像
右 ▶ 陶製ランプ(複製)

研究室訪問シリーズについて

今回の新企画「研究室訪問シリーズ」は、西南学院大学の先生方が研究の合間にコツコツと集めてこられた貴重な「個人コレクション」を、博物館スタッフと協力して一挙公開するものです。普段は大学の教室や研究論文でしか知ることができない先生方の研究をわかりやすく紹介します。大学における社会の窓口として、大学と地域社会の皆様とをつなぐ場となる大学博物館の使命を果たす企画です。

西南学院大学博物館

福岡県福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL 092-823-4785 FAX 092-823-4786
http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/

地下墓地 WORLD OF CATACOMBS
カタコンベの世界

2018. 4/2 MON ▶ 6/30 SAT

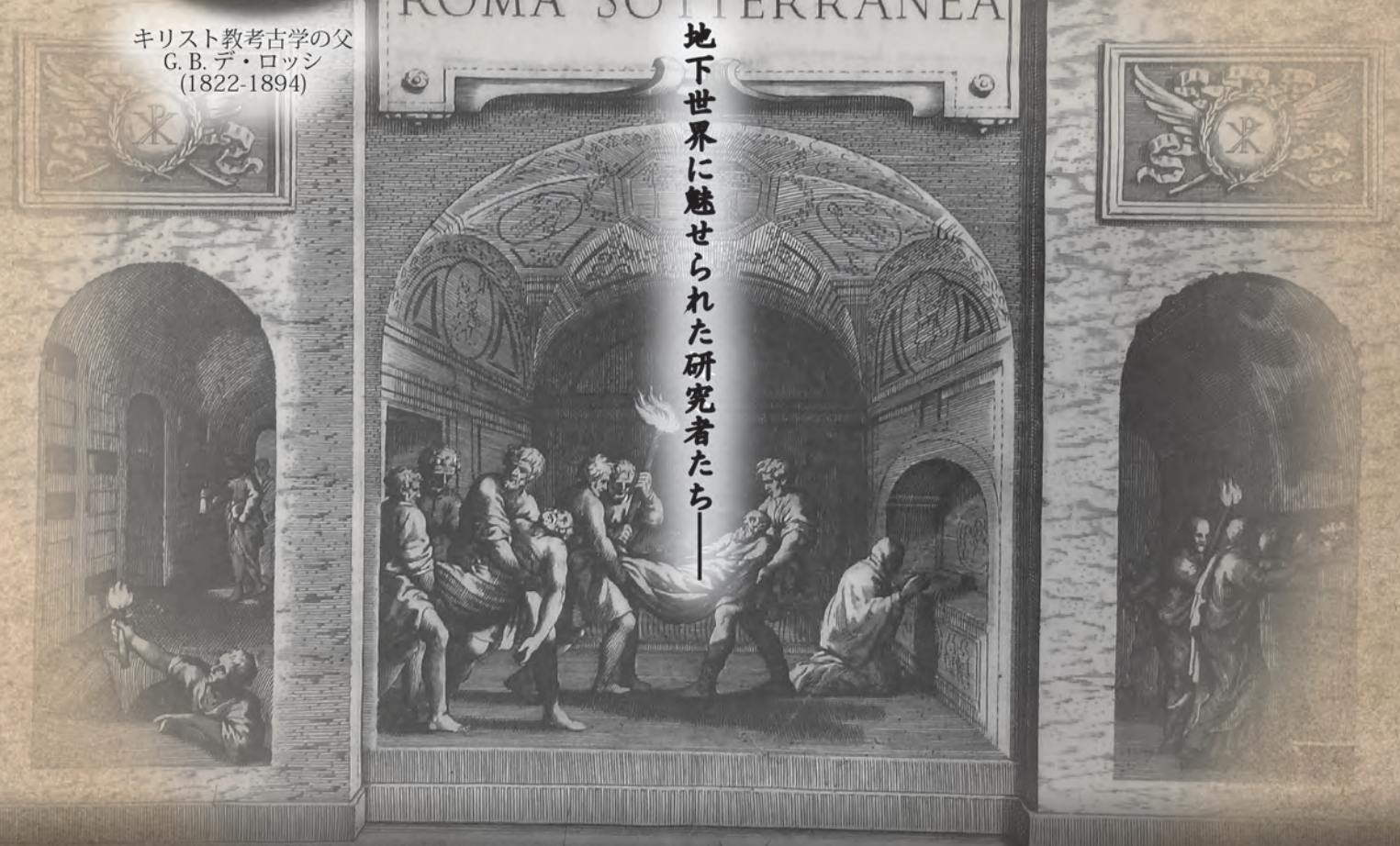
10:00~18:00 (入館は17:30まで)

西南学院大学博物館
1階特別展示室・2階講堂

無料
(日曜休館)



キリスト教考古学の父
G. B. デ・ロッシ
(1822-1894)



地下世界に魅せられた研究者たち

| 協力 |

山田順研究室 (西南学院大学国際文化学部国際文化学科)
南山大学教皇庁認可神学部図書館

西南学院大学

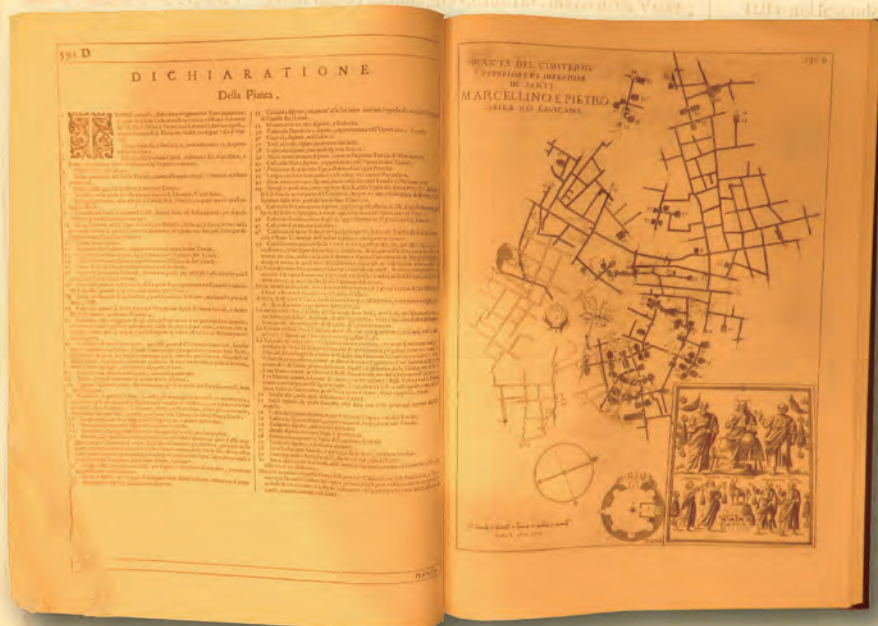
イタリア半島

を中心に分布するカタコンベ(地下共同墓地)は、ローマ帝国領内の葬制(埋葬方法)が火葬から土葬へと転換した2世紀後半に発生し、その後5世紀ごろまでキリスト教共同体やユダヤ教共同体の地下の埋葬施設として機能しました。今日、ローマ市郊外からは、大小様々なカタコンベが数多く発見されています。それらは、古代末期の多神教社会のなかでキリスト教が拡大普及していく変化のプロセスを、一般信徒層の生活レベルから解明するための貴重な考古学資料として、近年、大いに注目されています。今ではローマの観

地下世界の探検者たち — 冒険から研究へ —

DALL' AVVENTURIERI ALL' ARCHEOLOGICI
UOMINI ESPLORANO IL MONDO SOTTERRANEO

16世紀、ボージオの地下世界の冒険からカタコンベ研究は始まります。数世紀の沈黙の時代を経た19世紀、ボージオが残した先駆的著作が大きな導きの灯火となり、カタコンベの学術的調査研究が開花します。その代表者デ・ロッシは、今日につながるカタコンベ研究の学問的基礎を築き、その弟子ヴィルペルトと共に新たな科学的研究方法の導入を模索しました。カタコンベを長い沈黙の眠りから目覚めさせた彼らの研究は、大きな驚きをもって迎えられ、19世紀末には一般向け入門書も刊行されました。現在の最先端の研究では、レーザー機器による新たなデータ収集も試みられ、図像学や碑銘学など様々な分野の研究者が共に研究を進める複合的研究アプローチがキリスト教考古学に新たな可能性を開いています。本章では、カタコンベ研究を通してキリスト教考古学の基礎を築いた3人の立役者に注目し、彼らが遺した古典的研究書を紹介しながら、カタコンベ研究の萌芽と発展の軌跡をたどります。



左▶アントニオ・ボージオ『ローマの地下世界』ローマ、1632年

上▶ジュゼッペ・ヴィルペルト『ローマのカタコンベ絵画研究』ローマ、1903年

下▶ジュゼッペ・ヴィルペルト『古代キリスト教の石棺集』ローマ、1929-1936年



光名所のひとつとして賑わうカタコンベは、ゲルマン人の侵入・略奪が原因で放棄された7～8世紀から千年以上もの長い間、人々の記憶から完全に失われ、漆黒の闇のなかで静かに眠り続けていました。この死者に捧げられた「地下都市」に再び光が当てられるまでには、カタコンベの世界に魅せられ取り憑かれた者たちの命を賭けた探究の歴史がありました。本展覧会では、カタコンベの再発見に貢献した考古学者たちの挑戦とその成果に注目しながら、初期キリスト教考古学の成立と発展、そして最新の研究成果を紹介いたします。

ローマの地下世界 — カタコンベの発見と研究 —

SOTTERRANEE ROMANE
RISCOPERTE E RICERCHE DELLE CATAcombe

古代ローマ時代の遺跡が数多く眠る歴史都市ローマでは、地下世界の探求の歴史が今なお続けられています。現在、ローマ近郊では、50余りのカタコンベが発見され、なかには地下通路のべ延長が20キロを超える大規模なものもあります。発見されたカタコンベは、教皇庁考古学監査局の許可を得た研究者たちによって様々な分野の調査研究が行われ、その発生から拡大発展のプロセス、内部構造や装飾図像、被埋葬者の人物像などの解明が日々続けられています。これらのカタコンベ研究の成果は、キリスト教が今日のような世界宗教のひとつになるずっと以前、迫害の嵐に翻弄されていた時代の初期の共同体の状況や信仰について、また、古代末期の多神教社会のなかでキリスト教が普及拡大して行く変化の過程を私たちに教えてくれます。本章では、研究成果をもとに、ローマのカタコンベの構造的特徴や内部装飾の具体例をパネルで紹介しながら、カタコンベの時代の初期キリスト教徒の姿に迫ります。



▶被埋葬者の肖像(金彩ガラス) パンフィロのカタコンベ



▶キリストに駆け寄る被埋葬者たち(フレスコ) ドミティッラのカタコンベ



▶ドミティッラのカタコンベ地図



▶被埋葬者の肖像(フレスコ) ジョルダナーニのカタコンベ



▶ヴィア・アナボのカタコンベ内部